オイルエア用ミキシングバルブ

MVFシリーズ

MV50xS1シリーズ

MVFシリーズ　：吐出量範囲 = 0.01 ～ 0.16cm^3/ストローク

MV50xシリーズ：吐出量範囲 = 0.002・0.006cm^3/ストローク

製品特徴：

- 自動エア抜き機能(MX50xS1のみ)
- 吐出量の設定変更は簡単　－　計量ユニット及び配管の分解が不要
- モジュール型デザイン(MX50xS1のみ)

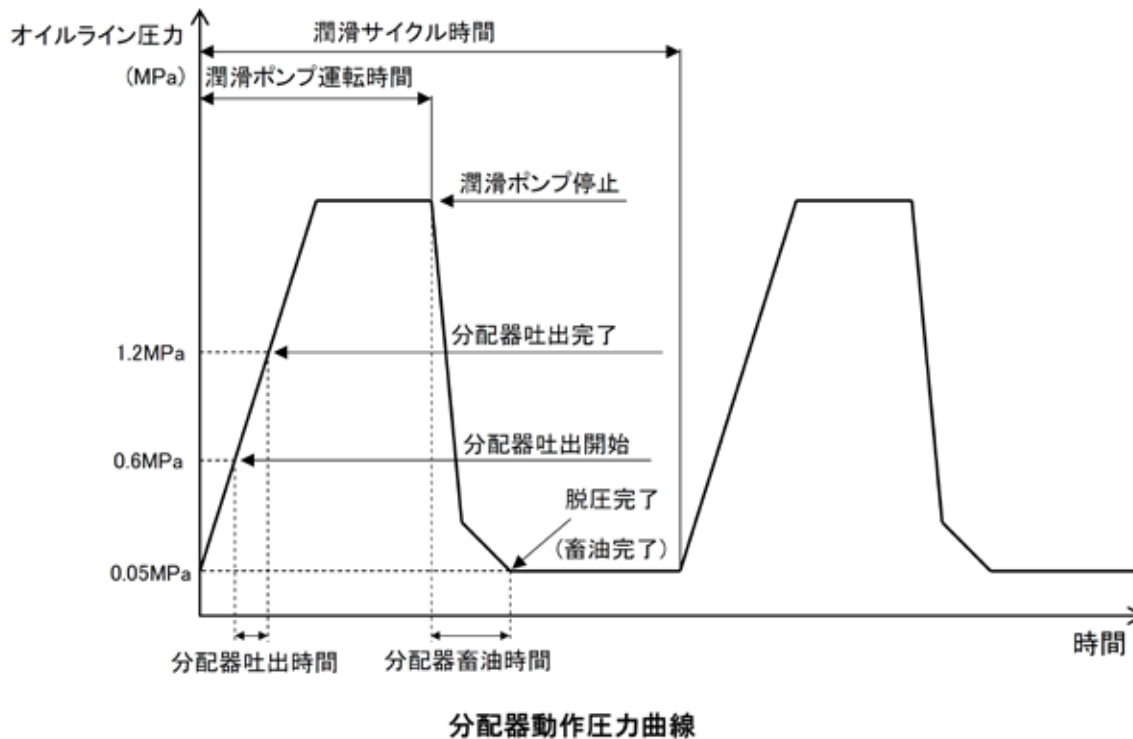
動作原理

ミキシングバルブは、非常に微量な油を計量させる定量ピストン式分配器を内臓しており、これによってエアライン中に潤滑油を供給することで、連続的なオイルエアを発生する装置です。

ミキシングバルブは、接続されたオイルラインの昇圧・脱圧によって、定量ピストン式分配器の吐出・蓄油を繰り返します。

その為、オイルラインの脱圧が不十分ですと、次回昇圧時に油が吐出されなくなりますので、脱圧は確実に行う必要があります。

潤滑点への給油量は、定量ピストン式分配器の吐出量と、潤滑ユニットの動作頻度によって決定されます。

分配器動作圧力曲線

定量ピストン式分配器の機能

1) 潤滑点に吐出する油はピストンの前にあります。

2) 集中潤滑ポンプは運転を始まると、ピストンが主管での圧力(1.2～3.0MPa)にて動作し、ピストンの前にあった油を潤滑点へ吐出します。

3) 主管を脱圧すると、分配器のピストンが元に戻って、新しい油がピストンの前に流入します。

タイプ	口数	L[mm]	A[mm]	P[mm]	B[mm]
MVF1	1	42	10	22	21
MVF2	2	64	9.5	45	21
MVF3	3	86	8	70	21
MVF4	4	108	6.5	95	21
MVF5	5	130	5	120	21
MVF6	6	155	5	145	22.5

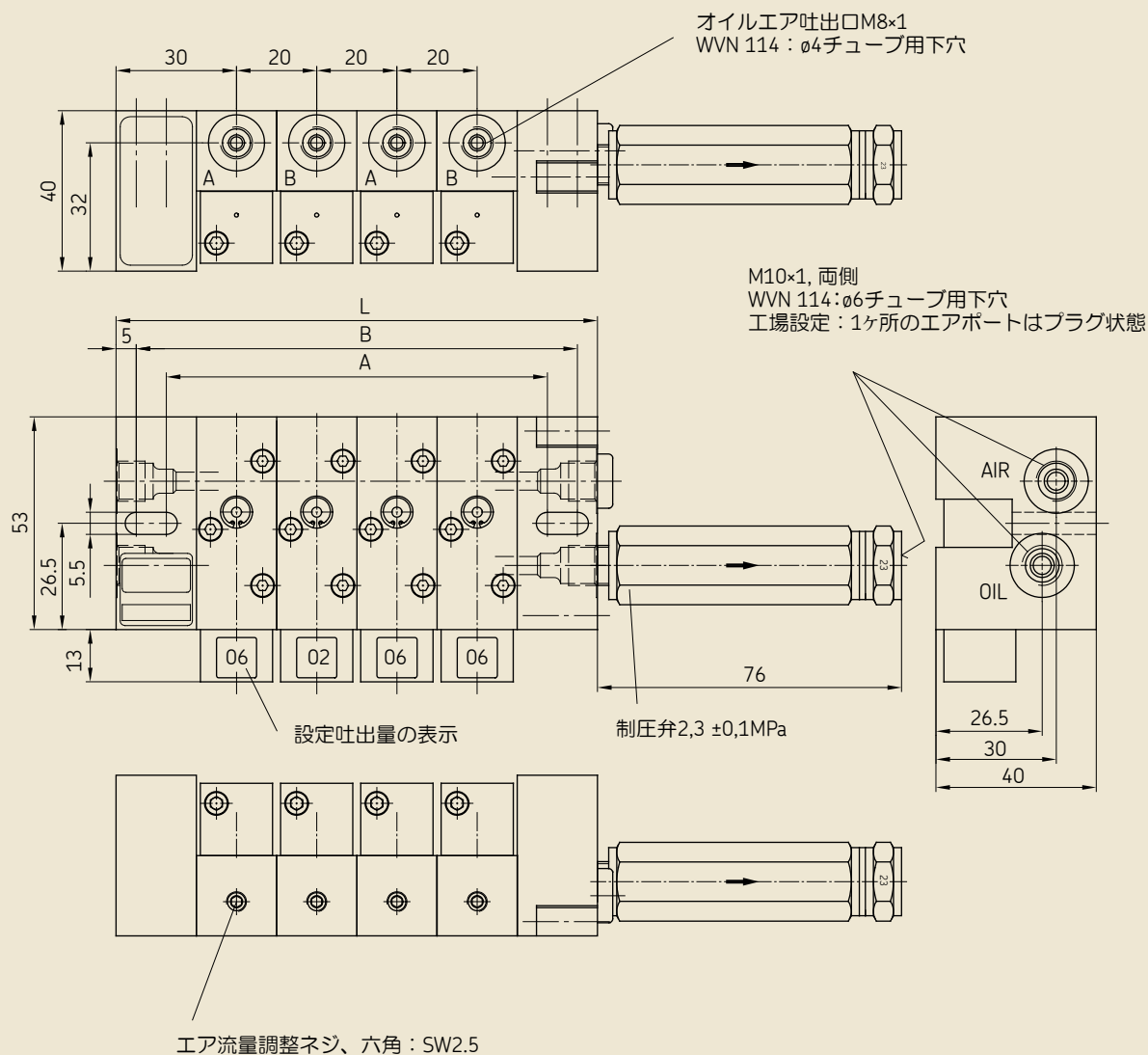
計量cm^3/ｽﾄﾛｰｸ	刻印番号	コード番号
0.01	1	1
0.03	3	2
0.06	6	3
0.10	10	4
0.16	16	5

注文例：
MVF6で吐出量が左より0.01, 0.03, 0.03, 0.10, 0.10, 0.16cm^3/ｽﾄﾛｰｸの場合：

MVF6-122445

MV5xS1シリーズ

注文番号	オイル・エア 吐出口数	寸法 L	A	B
MV502-S1	2	80	55	70
MV504-S1	4	120	95	110
MV506-S1	6	160	135	150
MV508-S1	8	200	175	190

吐出口・ショット 当りの吐出量 [cm^3]	設定吐出量 の表示
0	0
0.002	02
0.006	06

ご注文の際、設定吐出量を指示して下さい。

設定吐出量の順番は左から右です（図面通り）

注文例：

MV504-S1
吐出量[cm^3]: 0.006 – 0.002 – 0.006 – 0.006

ご注意：

オイルエアの吐出口は奇数になった場合、1つの吐出口を「0 cm^3」にして下さい。

奇数の吐出口の注文例:

MV506-S1
吐出量 [cm^3]: 0.006 – 0.002 – 0.006 – 0.002 – 0.006 – 0

オイルエア潤滑の原理では計量したオイルをエアで分解させ、分解したオイルをエアで搬送します。

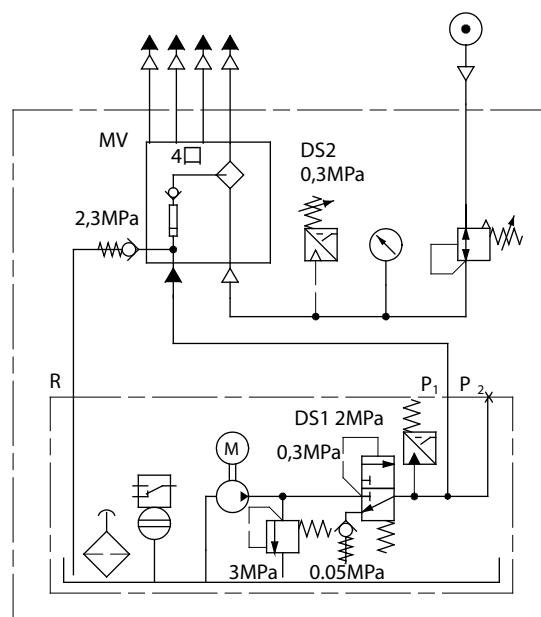
MV50x-S1シリーズはMVFシリーズに対して追加的なものです。微少量吐出量範囲に対してはMV50x-S1で対応します。

MV50x-S1の計量範囲は0.002cm^{3}と0.006cm^3、MVFは0.01cm^3～0.16cm^{3}の吐出量範囲です。

MV50x-S1とMVFは一緒にオイル＋エアシステムに取り付けることができます。従って、0.002cm^3～0.16cm^{3}の吐出量範囲は1つのシステムで対応できます。

MV50x-S1に付いている制圧弁(2.3MPa)では主管を自動的にエア抜きします。制圧弁の吐出口はタンクへの戻りラインと連結します（右の系統図参照）。

エア抜きはポンプの運転サイクル毎に自動的に実行し、MV50x-S1へのエアレスオイルの供給を確保します。

MV504-S1付オイルエアユニットの系統図

仕様

作動圧力	
エア	0.3 ～ 1MPa
オイル	2.5 ～ 4MPa
許容使用粘度	40 ～ 200 mm^2/s
温度範囲	+5 ℃ ～ +80 ℃
シール	FPM
取付姿勢	できる限りで図面通り

注文番号 LS-0011-JA

5/2013

ご注意

SKF の各製品はこのカタログ、又は、他の資料で説明した目的範囲外にて、使用しないで下さい。納入製品に取扱説明書が付いている場合、取扱説明書による指示に従うようにして下さい。
集中潤滑システムにおいては適応しない潤滑剤もあります。SKF は集中潤滑システムに対して潤滑剤の適応性を確認する為のテストサービスを提供いたします。
SKF の潤滑システム及びコンポーネントはガス、液状ガス、溶液による圧縮ガス、また、蒸気圧力が通常の気圧 (1013hPa) に対して最高許容温度の時 0.05Mpa を超える液体に対応しません。
危険性がある材料､特に EC Directive 67/548/EEC,Article 2, Par.2 による危険材料を使用する場合は、SKF からの証明書が必要です。

日本エスケイエフ株式会社
潤滑ビジネスユニット
578-0903
大阪府東大阪市今米 1-15-22
Tel.: (0)72-964-3551
Fax: (0)72-964-1619
www.skf.jp/lubrication

このカタログをお渡しした担当者: